

9月の道内景況

情報連絡員レポート

全業種で大幅に悪化 地震・停電の影響が顕著に

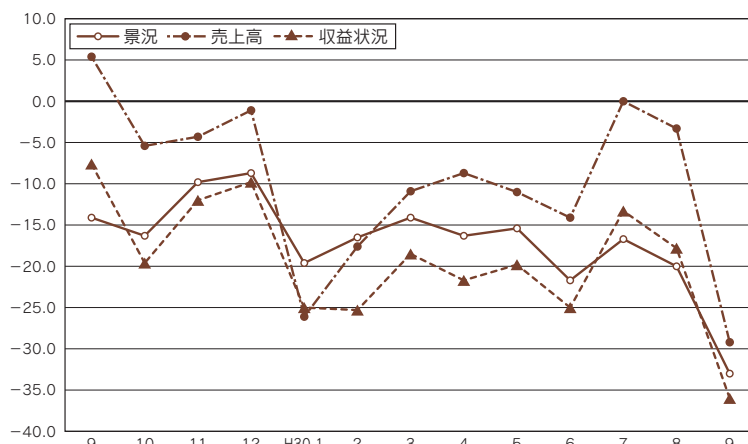


概況

主要DI値の推移では、北海道胆振東部地震とブラックアウトの影響から全ての項目で大幅に悪化した。

製造業、非製造業ともに「景況」「売上高」「収益状況」が前月から大幅に悪化し、他の項目についてもほとんどが悪化するなど、業種を問わず災害による事業活動への重大な影響が浮き彫りとなった。

主要 DI 値の推移



景況天気図 (前年同月比)

	全業種			製造業			非製造業		
	8月	9月	前月比	8月	9月	前月比	8月	9月	前月比
業界の景況	△20.0	△33.0	△13.0 ↓	△24.2	△34.4	△10.1 ↓	△17.5	△32.1	△14.6 ↓
売上高	△3.3	△29.2	△25.9 ↓	△6.1	△40.6	△34.6 ↓	△1.8	△22.8	△21.1 ↓
収益状況	△17.8	△36.0	△18.2 ↓	△24.2	△34.4	△10.1 ↓	△14.0	△36.8	△22.8 ↓
販売価格	5.6	4.5	△1.1 ↓	3.0	3.1	0.1 ↑	7.0	5.3	△1.8 ↓
取引条件	△7.8	△12.4	△4.6 ↓	△9.1	△9.4	△0.3 ↓	△7.0	△14.0	△7.0 ↓
資金繰り	△3.3	△11.2	△7.9 ↓	△6.1	△15.6	△9.6 ↓	△1.8	△8.8	△7.0 ↓
雇用人員	△16.7	△11.2	5.4 ↑	△15.2	△6.3	8.9 ↑	△17.5	△14.0	3.5 ↑

(凡例)

30 以上

10 ~ 29

9 ~ △ 10

△ 11 ~ △ 29

△ 30 以下



天気図の見方 各景況項目について調査月と前年同月を比較して、「増加」(または「好転」)したという回答(構成比)から「減少」(または「悪化」)という回答(構成比)を差し引いた値(D・I値)をもとに作成。その基準は上記のとおりである。

製造業

- ・原材料価格の高止まりで販売価格が上がり、売上高の減少が続いていたところに、地震・停電の影響で原材料在庫と陳列商品の廃棄が重なりダメージは大きい。
(水産食料品／全道)
- ・9月に入りいよいよ生産が本格化してきているものの、生産量は若干昨年を下回っている。今年暮れの塩カズノコ商戦の指標となる大手メーカーの大坂市場仲卸店頭参考価格が発表され、昨年を大きく上回る価格で決まったと発表された。値上げをすれば需要が後退することはわかっているが、このところ生産コスト上昇を価格転嫁できていないため、やむをえない選択である。暮れの商戦影響が気にかかるところである。
(水産食料品／留萌)
- ・9月6日の地震により停電となり各社製造がストップした。早くから通電したところもガソリン不足が発生し車が走れないため、出荷することができず廃棄しなければいけない商品が出た。企業によっては、数百万の損失となったところもある。
(めん類／全道)
- ・相変わらず原料が高値のままで収益は下がっている。地震、停電の影響で2日間工場が作業できず通信関係・物流関係の影響も数日あったため、その分マイナスとなっている。
(水産食料品／函館)
- ・9月6日に発生した北海道胆振東部地震による各メーカーへの影響は、いずれも大きな被害に至らなかった。停電により、6～8日にかけてスーパー、コンビニが休業

- し先行きが危ぶまれたが、復旧後は水を中心に売れ、増加に転じた。(飲料／全道)
- ・原木入荷が相変わらず悪いことに加え、9月6日の胆振東部地震による停電の影響で2日間の工場生産停止となり、生産量低下に拍車をかけた。(一般製材／幕別)
- ・9月は大型台風、大震災による経済的打撃は非常に大きい。
(パルプ・紙・紙加工品製造業／全道)
- ・9月度の出荷数量、売上高については、アスファルト合材用を除き、工事進捗の遅れ、胆振東部地震、大規模停電の影響もあってか、路盤用、生コン用などで前年対比減少した。
(窯業・土石製品製造業／札幌・砕石)
- ・会員事業所の状況
修繕船工事関係の事業所は、9月以降10月も低調で過剰人員が発生している。仕上工、配管工、船大工等は減少、9月から連続して出張している。
(金属製品／室蘭)
- ・9月6日の地震で一部の印刷会社は、用紙供給元の卸流通部門に多大な影響を受け、用紙供給されず9月9日まで生産できなかつたり、スーパーの商品不足などにより9月14日頃まで、チラシの印刷が激減、売上にも影響している。用紙卸商の話では9月は用紙需要が30%減少して推移したとの事。売上減と経費増が推察されるが、9月収支は10月中旬頃にならないと分らない。
(金属機械工作／札幌)

非製造業（卸・小売・商店街・サービス業）

- ・胆振東部地震の影響が大きかった企業と、影響が少なかった企業で回答が大きく分かれた。停電による物流の停滞で仕入れ・販売ともに商品が動かず売上への減少、在庫の減少、収益の悪化といった影響が出たが、一方で生活必需品の需要が反動的に高まり扱い品目によっては増収となっているところもある。地震による予定外のコスト増加で収益面は悪化との回答が多数を占めた。(各種商品／札幌)
- ・9月6日早朝発生した北海道胆振東部地震について
地震そのものの人的・物的影響はなかった。ブラックアウトによる停電については、食品関係を扱う組合員に冷蔵品の廃棄などはあったものの、停電は当日の夜または翌朝には復旧していたので、多くの組合員は被害を最小限に留められた。今後の対策を急務とし、BCP策定などの検討に入るとの意見もある。当組合としては、11月にBCPに関する勉強会を開催予定。
(各種商品／帯広)
- ・地震の影響により一時は物流が滞り、商品在庫がなくなるなど売り上げでは前年を上回る推移となった。現在は回復したものの、一部企業で物流センターの損壊があるなどの被害があった。
(菓子／全道)
- ・9月6日の震災の影響により、商品の流通に支障が起き、一部の発電機、バッテリー、電池商品の品不足がでた。
(電気資材／全道)
- ・台風・地震の影響で、納期のずれ・延期等が起こり、組合員に格差はあるが、業績は悪化した。
(木材／全道)
- ・9月6日の胆振東部地震と停電の影響で約3日間の売上が無く、その後も消費マインドが低下し、衣料品を中心に前年割れとなった。燃料単価が昨年より上がっているので辛うじて物販の合計では前年をやや上回ったが、遊興費の自粛からかキャッシングが大幅に減少したのと、セキュリティ強化による費用の増加で収益が大幅に悪化した。
(各種商品／旭川)
- ・胆振東部地震災害の大規模停電による影響は大きかった。食品スーパーを中心に商品の品薄が続き売上減少となった。また災害の影響はホテルや飲食店にも大きな影響があり、秋の行楽シーズンに巻き返しを望みたい。
(各種商品／苫小牧)
- ・9月の各組合員の状況について
9月の各組合員の状況だが地震・停電等の影響もあり、前半が厳しく、中旬以降盛り返したが、全体的には厳しい状況だったとの声が多かった。(各種商品／釧路)
- ・北海道胆振東部地震の直接的な地震被害はないが、風評被害による観光入込の低下が大きい。加盟店全店を対象に今回の地震に伴う被害状況をアンケート調査したところ、施設や設備の損壊はほぼ皆無だが、生鮮物をはじめとする在庫品の廃棄や営業損失に多大なダメージがあった。特に売上の被害額が大きい店舗で300万～400万円、全店合わせて3000万円以上の損害額となっている。(各種商品／函館)

- ・6月以降小幅な上げ下げで推移していた原油価格が、8月末から高騰し市場価格も5月以来4ヶ月ぶりの値上げとなり、ガソリンで昨年比24円の高値となっているが、売上高は多少増加しているが、販売数量は、胆振東部地震の停電により、殆どのSSが休業を余儀なくされたのに加え、地震の影響で2度の連休も人の動きが無く、より一層厳しい経営環境となっている。
(燃料小売業／稚内)
- ・地震の時に交通機関が麻痺したため、自転車の修理や購入をする人が一時的に増えたお店もあったが一過性のもの。除雪機やストーブの点検、修理が始まってきている。
(自転車・自動車／全道)
- ・売上高対前年同月比7.8%増加。9月6日に発生した地震により缶詰、パン、レトルト食品等売り上げ増となる。
(野菜・果実／札幌)
- ・組合全体の売り上げの昨年同月比104%。震災の停電により店舗を閉めた日もあったが、その後の反動による販売増があった。業種的に差はあるが、スーパー、ホームセンターが増加した。
(各種商品／芦別)
- ・9月6日に発生した北海道胆振東部地震により防災関連の機器の需要が高まり、需要が短期間に集中した。しかし電池や懐中電灯が西日本の集中豪雨と重なったため品切れとなり、それほど売り上げは伸びなかった。予期せぬブラックアウトにより電源を供給した地域店への信頼の高まりや、防災意識の高まりから暖房器具などの需要が高まった。水力・風力・太陽光・バイオマス発電などの自然エネルギーの蓄電池の関心が高まり、エネファームによる自家発電への関心が高い。
(電気機械器具／全道)
- ・9月6日の地震による停電の影響で営業できない店多数。また、売り上げの中心である日配品など入荷しないため売り上げが減少。
(各種商品／斜里)
- ・9月6日の地震と2日間の停電により来街者が減り売り上げが減少した。
(商店街／網走)
- ・地震の影響で売り上げも宿泊客も多大なる損失が出た。(ホテル・旅館／札幌)
- ・9月6日に発生した胆振東部地震による北海道内IT企業関連の被害は、道内全域で発生した電力供給停止によるものがほとんどであった。
(ソフトウェア／全道)
- ・9月の十勝川温泉宿泊入込数は22,326人 全年度比－7,924人、74%でした。胆振東部地震の影響によりキャンセルが相次ぎ、前年を大きく割り込んだ。特に道外客は、前年比5,428人減(55%)と半減するとともに、これまで好調であったインパウンドにも大きく影響しました。9月30日現在、キャンセル数は10,122人。
(旅館／音更)

非製造業（建設・運輸業）

- ・9月の業況は、台風21号、胆振東部地震により北海道各地で甚大な被害に遭い電気工事においては各方面で復旧工事そして今後も復興工事で奔走している。この災害で予定工事及び現工事に大きな問題が発生し、取消し、延期、中止工事等々と資材の確保を含めて影響は少なくない。今後もまだまだ余震が続いており予断は出来ない状況なので当工事組合は、各単協と連携を取り合いながら出来る限り対処することを取り決めている。
(電気工事／全道)
- ・人材不足と10月1日から材料仕入れ単価の値上げが予定されるなど厳しい状況は続いているが、売上や引き合いは増加傾向にあり業況は若干好転しているものと見受けられる。
(左官工事／全道)
- ・組合員の業況
9月は胆振東部地震の発生で大規模な停電の影響がどれだけのものか懸念されたが、燃料、資材等の供給が確保され大事に至らなかった。また、台風の影響もほとんど無く、工事は順調に進捗している。
問題点
10月始めに発注予定の工事が1件告示されたが、11月末までに完成予定なので秋枯れの様相となってきている。
地域の実情
補正予算による土木工事、建築リフォームの助成金の追加等により、建設業に

- 活気が戻りつつあるが、大型量販店のオープンを間近にひかえて、全体的には郊外中心の販売網が形成され、街中の商店にも少なからず影響が出る可能性がある。燃料の値上げにより企業はもとより消費者にとって厳しい状況となった。
(管工事／名寄)
- ・胆振東部地震の影響は大きく、売り上げは減少している。特にバス業界は他より多い印象がある。また、農作物の作況も悪く出荷が少ない。さらに燃料が例年になく値上がりしていることも予想外である。(一般貨物自動車運送／小樽)
- ・(荷動きについて)
軟弱野菜の出荷量は8月に引き続き長雨の影響で芳しくないものの、人参等はおそまきの回復が若干あった。馬鈴薯・玉葱はほぼ順調。一般カーゴについては昨年と同レベル。ただし震災と大型台風の影響から積み置き車輛が増え、車両の運行に偏りが出てしまい北海道・本州での車両繰りに差が出始め現在も続いている。域内輸送も台風と震災の影響を受けた月となった。地震発生直後はほぼすべての輸送がストップしたものの、停電回復後は集中して貨物が動き出したため車両不足の状態となったが現在は通常通りとなっている。
(一般貨物自動車運送／石狩)
- ・9月は震災による停電の影響で信号停止となり運行不能、さらに給油もできず売上高が大幅減となった。
(一般乗用旅客／苫小牧)